

環境と保険・金融

2009年11月6日

株式会社 損害保険ジャパン

理事 CSR統括部長 関 正雄

1. 損保ジャパングループの環境の取り組み概要
2. 損保ジャパングループにおける環境配慮型の保険・金融商品のラインアップとその具体的な仕組みについて
3. 投資、融資、保険の各分野の取り組み将来像

損保ジャパングループの会社概要

2002年7月に安田火災と日産火災が合併して誕生(12月から大成火災も合流)

創 業	1888年(明治21年)10月
資本金	700億円
総資産	5兆9, 133億円
経常収益	1兆7,679億円
役職員数	約24, 500名
代理店数	49, 430店
営業網※	営業部・支店109、 営業課支社等537、 海外29カ国93都市
損害サービスネットワーク※	全国265か所
	2009.7.1現在

2010年4月に経営統合(共同持株会社設立)

「お客さまに最高品質の安心とサービスをご提供し、社会に貢献する新たなソリューション・サービスグループ」の創設



目指す企業グループ像(経営ビジョン)

- 最高品質の安心とサービスを提供
- 国内事業に軸足
- **社会と環境にやさしい幅広いソリューションを提供**
- 株主価値の最大化
- 自由闊達・オープンで活力溢れる企業文化
- いずれの企業・金融グループからも独立



事業概要(リスクと資産形成に関する総合サービスグループ)

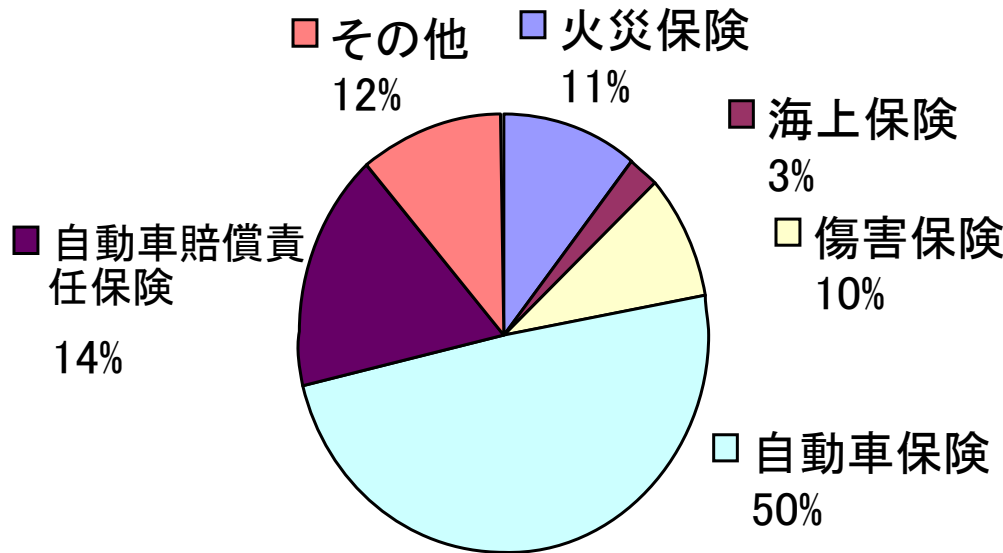
【損害保険事業】

2008年度 正味収入保険料(損害保険事業【連結】) 13,081億円

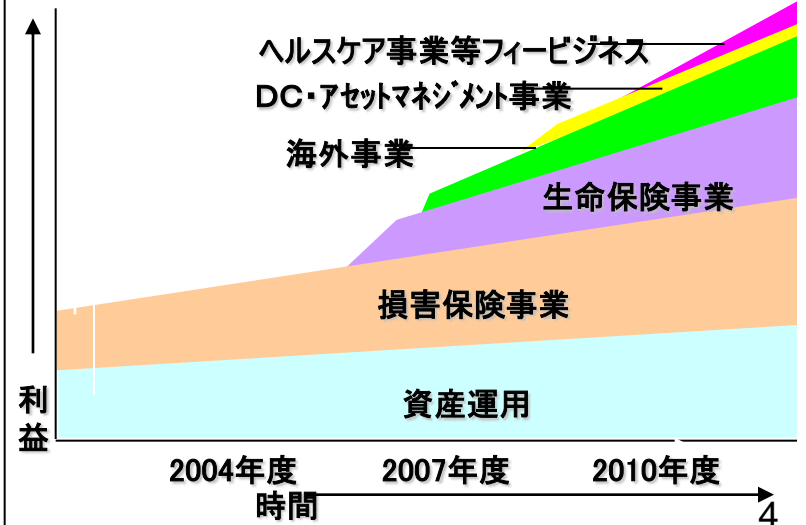
【その他の事業内容】

- ・生命保険事業(損保ジャパンひまわり生命、損保ジャパンDIY生命)
 - ・確定拠出年金サービスの提供(損保ジャパンDC証券)
 - ・投資信託業務(損保ジャパンアセットマネジメント)
 - ・メンタルヘルスケア対策の総合サービス(損保ジャパン・ヘルスケアサービス)
 - ・リスクマネジメント・コンサルティング(損保ジャパン・リスクマネジメント)
- ほか

2008年度正味収入保険料 種目別割合(%)



グループ会社利益ベース事業ポートフォリオ



環境からCSRへ ～これまでのあゆみ

1998年～2000年

- ・環境レポート発行(金融機関初)
- ・環境リテラシー研修導入
- ・“E-ことプロジェクト導入”(環境・社会貢献)
- ・エコファンド「ぶなの森」開発
- ・損保ジャパン環境財団設立
- ・1999年 本社ビルISO14001取得
- ・天候ディリバティブ

2001年～

- ・SRIファンド「未来のちから」開発
- ・サステナビリティレポート発行(金融機関初)
- ・土壌汚染関連保険取扱開始
- ・年金・機関投資家向けの私募エコファンド開発
- ・損保ジャパンエコ・オープン開発
- ・CSR・環境推進室設置

1990年地球環境リスク・マネジメント室設置

1991年～紙・電力を大切にしよう運動

1992年地球環境室設置

「市民のための環境公開講座」開始

環境汚染賠償責任保険の開発

1997年
事務本部ビル
ISO14001取得
(金融機関初)

未取組

初期
段階

発展
段階

全社的
拡大
段階

CSRへの
取組
本格化

CSR「4つの重点課題」(持続可能な社会への責任と貢献)

CSR先進企業グループとして社会的価値を創造し続ける企業へ

損保ジャパングループは、CSR先進企業グループとして、持続可能な社会を実現するため、経済的価値の創造にとどまらず、ステークホルダーと協働して、環境的課題と社会的課題の解決に向け、取り組んでいきます。

損保ジャパンは、2009年1月に「世界で最も持続可能な100社(グローバル100)」に選出されました。

損保ジャパングループのCSR「4つの重点課題」

(ステークホルダーと損保ジャパングループの本業にとって重要度の高い課題群)

気候変動における「適応と緩和」	安全・安心へのリスクマネジメント	CSR金融	地域における協働の促進
<ul style="list-style-type: none"> ・広域災害に備えた事故対応サービス体制の整備や財務体質強化など適応能力のさらなる向上 ・気候変動に脆弱な途上国での適応策としてのリスクファイナンスの提供 ・地球温暖化抑制に寄与する保険商品の開発 ・自社のCO2排出削減 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全につながる商品・サービスの開発 ・社会の安全・安心のためのリスク管理や事故防止に関する情報提供、コンサルティング、啓発・教育活動 ・企業のBCM(事業継続管理)支援 ・企業のヘルスケア対策支援 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の流れを通じて社会の持続可能な発展に貢献する「社会的責任投資(SRI)」の普及 ・環境や社会資本整備などのプロジェクトファイナンスへの参加促進 ・高齢化社会を視野に、新しいニーズや時代に対応した商品・サービスの開発 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各セクターとの協働プログラムの展開 ・ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド活用拡大 ・社員一人ひとりの地域貢献活動を支援 ・NPOへのニーズにあった支援 <p>など</p>

損保ジャパンのCO2総排出量削減目標
(2002年度比)

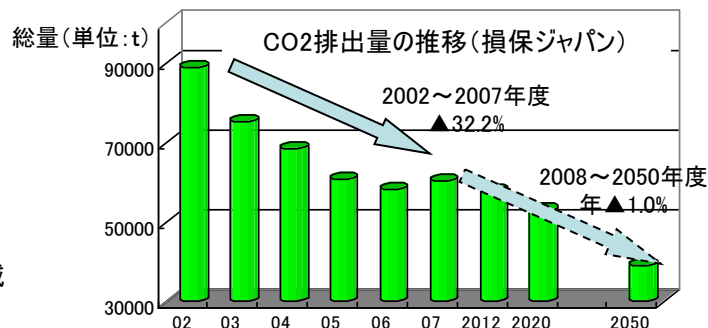
【中期目標】

2020年度までに、40.5%以上の削減

【長期目標】

2050年度までに、56.0%以上の削減

* 2011年度末までに34.9%以上の削減



3つの財団と有機的に連携

(財)損保ジャパン美術財団
(財)損保ジャパン環境財団
(財)損保ジャパン記念財団

『エコ・ファーストの約束』の宣言について

2008年11月 業界のトップランナー企業の環境保全に 関わる行動をさらに促進していくために環境省が創設した「エコ・ファースト制度」におけるエコ・ファースト企業(グループ)として認定

損保ジャングループは、「リスクと資産形成に関する総合サービスグループ」としての本業の強みを生かし、低炭素社会、自然共生社会、循環型経済社会の構築に貢献することを自らの社会的責任ととらえ、グループをあげて全員参加で、地球環境問題への取り組みを地道かつ継続的に展開していきます。

1. 「CSR金融」として、金融・保険機能を生かし社会的課題の解決に資する新商品・新サービスの提供を推進
2. 「持続可能な発展のための教育(ESD)」を実践し、(財)損保ジャパン環境財団などともに環境問題の解決に向けて行動する「人」づくりを推進
3. 低炭素社会に向けて、自らの省エネルギー活動を強化
4. 循環型経済社会、さらには、持続可能な社会の構築のため、グリーン購入を推進
5. 地域における協働を促進する社会貢献活動を推進



ロゴマーク



詳細: 当社ホームページ

2008.11.11環境省大臣室での約束式(左は齊藤鉄夫環境大臣)

<http://www.sompo-japan.co.jp/news/download/200811101500.pdf>

環境金融商品・サービス一覧

保険商品

<自動車保険>

対物全損時修理差額費用特約、
車両全損修理時特約、
事故時のリサイクル部品の活用推進、
エコ安全ドライブの普及・促進

<その他>

環境汚染賠償責任保険
産業廃棄物排出者賠償責任保険、
医療廃棄物排出者責任保険、
土壌汚染保険、コストキャップ保険、
SS漏油保険(ガソリンスタンド・サービス
ステーション施設の汚染浄化費用)、
汚染土地流動化促進につながる
包括的サービス(賠償責任保険)、

火災保険の環境臨時費用保険金、
ゴルファー保険(緑にやさしい補償付き)、

CDMクレジット購入契約にかかわる保証
証券スキーム(保証保険)、

天候デリバティブ(黄砂、風力、太陽光
発電システム、農業、台風、高潮等)

金融商品

<エコファンド(5種類)>

損保ジャパングリーンオープン
(ぶなの森)
年金向け私募エコファンド、
機関投資家向け私募エコファンド
損保ジャパン・エコ・オープン
(配当利回り重視型)、
イオン好配当グリーン・バランス・
オープン

<SRIファンド(1種類)>

SRIファンド(未来のちから)

<環境融資>

リフォームローンecoプラン
(住まいのエコリフォームと生物
多様性保全(里山)を応援)

<PFI融資>

リサイクル事業、風力発電事業、
バイオマス発電事業等)

サービス

<環境関係の従来サービス>

ISO14001取得コンサルティング、
環境リスク簡易診断コンサルティング、
CSRリスクマネジメント診断、
環境マネジメントとコミュニケーション、
環境マネジメントと危機管理、
土壌汚染リスク評価、
化学物質管理、
地下水汚染に係わるリスク管理、

<最近の環境関連サービス>

温暖化リスクマネジメント・コンサル
ティングサービス、
CASBEE(建築環境総合性能評価
システム)評価認証サービス、

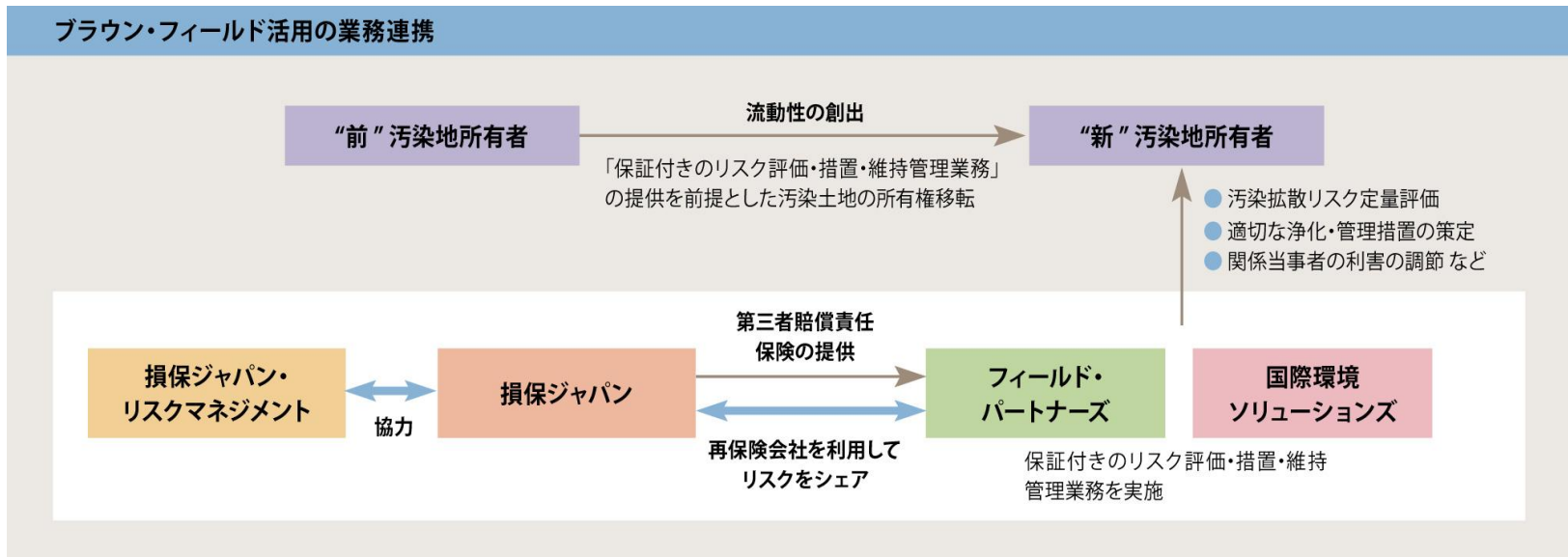
<総合的なリスクマネジメントサービス>

事業継続マネジメント(BCM)
コンサルティングサービス
企業リスクマネジメント(ERM)
リスクマッピング、リスク定量評価

リスクファイナンス・ソリューション、 ファイナンス、 リスクマネジメント

環境保険商品の例(土壌汚染・廃棄物・環境汚染関連)

<p>廃棄物関連</p>	<p>産業廃棄物排出者責任保険、医療廃棄物排出者責任保険 廃棄物処理業者へ委託した廃棄物が不要投棄されたことにより、排出者が都道府県から措置命令を受けた場合に不法投棄された廃棄物にかかる「除去費用」、「土壌浄化費用」および「健康被害に対する賠償責任保険」について補償する保険です。</p>
<p>土壌汚染・環境汚染関連</p>	<p>シロ保険： 当社指定業者による土壌汚染調査で「汚染なし」と判定されたにもかかわらず、後日想定外の土壌汚染が発見された場合に、その浄化費用を補償する保険です。 コストキャップ保険： 当社指定業者による土壌汚染調査で「汚染あり」と判定され、実施した土壌浄化工事において調査時には不明であった想定外の汚染が発見された場合に、当初予定していた浄化費用を超過した差額について補償する保険です。 SS漏油保険： 当社指定業者による実地検査で「漏えいなし」と判定されたにもかかわらず、ガソリンなどの漏えいが発見された場合に、土壌汚染により事業者が負担する「第三者に対する法律上の賠償責任保険にかかる損害」および「SS(サービスステーションに施設自体の汚染浄化費用)」について補償する保険です。突発的な事故によるガソリンなどの漏えいだけでなく、地下タンクの老朽化などによる徐々に発生した漏えいにもカバーします。 環境汚染賠償責任保険： 一般の賠償責任保険では対象とならない環境汚染に起因する賠償責任保険および汚染浄化費用について補償する保険です。</p>
<p>土壌汚染対策コストを低減し、汚染された土地の流動化を促進する包括的サービス 土地汚染リスク評価などの専門的技術を持つ企業と共同で、新たなリスク評価に基づく土壌の維持管理業務と保険を組み合わせ汚染対策コストの低減につながるサービスの提供を開始(損保ジャパンCSRコミュニケーションレポート2009 P36参照)</p>	

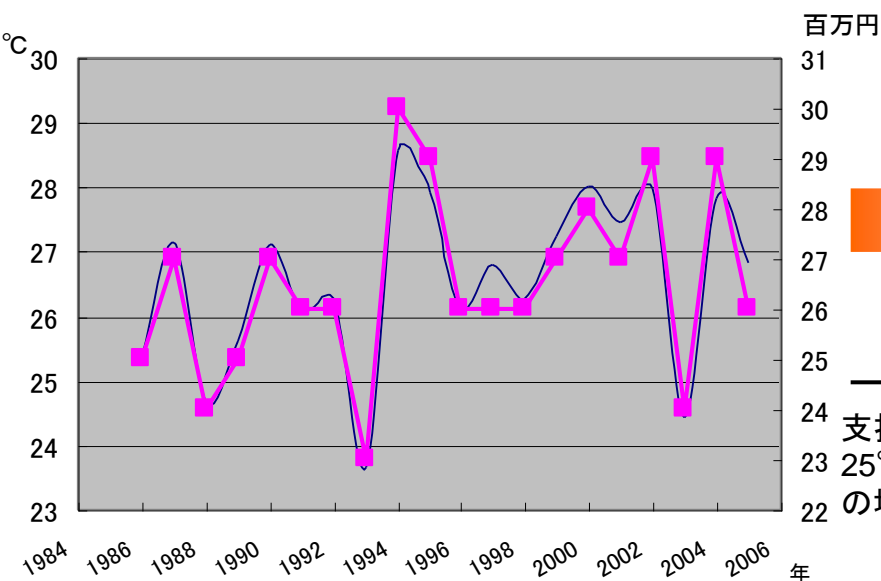


環境商品の例(天候デリバティブ・天候インデックス保険)

天候デリバティブ・天候インデックス保険の活用イメージ

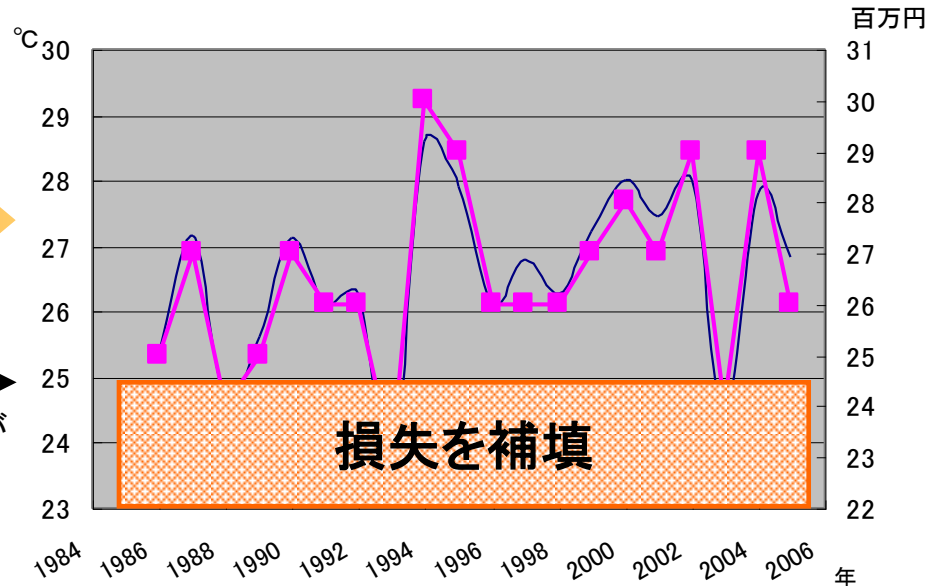
気温変動による売上高の変動

— 気温(°C)
■ 売上げ(百万円)



売上減少幅の限定

— 気温(°C)
■ 売上げ(百万円)



天候デリバティブ・天候インデックス保険とは、気温、風、降水量、積雪量等の天候に関する指標(インデックス)が一定の条件を満たしたときに、予め約定した金額の支払を受けられる金融商品を指す。損害の査定が必要ないため、想定外の気象条件により被る収益減少、支出増大を、速やかに補填可能となります。

*注:天候インデックス保険と天候デリバティブは、商品の機能はほぼ同じ。日本では天候デリバティブとして販売されている商品とほぼ同じ内容の商品が、タイやインド、フランスなどの国では保険として扱われています。

新エネルギー関連<天候デリバティブ活用による太陽光発電導入の促進>

個人住宅への太陽光発電システム設置を手がけている企業と共同で開発した商品。太陽光発電システムを購入する消費者に対して、異常気象等によって日照時間が少ない場合に補償金を支払います。日照時間不足による発電量減少リスクを軽減できることから、太陽光発電の導入促進につながるよう金融面から普及促進を後押しするスキームです。

金融商品の例(エコファンド・SRIファンド)

損保ジャパン・グリーン・オープン(「ぶなの森」)の特徴(1999年9月30日～)

- ・主として日本の株式(日本の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含まず。)に投資し、長期安定的な信託財産の成長を目指します。(日本の株式を主な投資対象とし、TOPIX(東証株価指数をベンチマーク)を上回る運用成果を目指します。
- ・環境問題への取組状況と本来の投資価値の両面から分析し、評価の高い銘柄に投資します。
- ・月次運用レポートで、全銘柄を開示、組み入れ上位銘柄の環境・エロコメントの掲載や四半期ごとに「ぶなの森ニュース」を発行し、最新の環境トピックスを紹介するなど、投資家との環境コミュニケーションを充実させています。

銘柄選定プロセスと環境ユニバース構築プロセス



具体的なファンドの銘柄選定プロセスにおいて、環境分析からポートフォリオ組成に至るまで、損保ジャングループ独自のスキームを採用しています。

- 「ぶなの森」への評価: モーニングスターアワード「ファンド オブ ザ イヤー 2007」国内株式部門「優秀ファンド賞」受賞
 「R&Iファンド大賞2007」確定拠出年金 国内株式部門「優秀ファンド賞」受賞
 「R&Iファンド大賞2008」投資信託 国内SRIファンド部門「優秀ファンド賞」受賞
 「R&Iファンド大賞2009」投資信託 国内SRIファンド部門「最優秀ファンド賞および確定拠出年金 国内株式部門「優秀ファンド賞」受賞

その他 投資信託商品

- 年金向け私募エコファンド、機関投資家向け私募エコファンド: 「ぶなの森」の環境分析を活用し、年金向けおよび適格機関投資家向けの私募エコファンドを販売
 損保ジャパン・エコ・オープン(配当利回り重視型): 「ぶなの森」の環境分析を活用し、相対的に割安に評価され、さらに予想配当利回りにも着目してポートフォリオを構築します。
- イオン好配当グリーン・バランス・オープン(「みどりのふたば」): 損保ジャパン・エコ好配当マザーファンドおよび損保ジャパン高金利外国債券マザーファンドの受益証券への投資を通じて、日本の株式および日本を除く世界各国の公社債に投資します(株イオン銀行専用商品)。
- SRIファンド(「未来のちから」): NPOであるパブリックリソースセンターによる調査より社会的責任株価指数(モーニングスター社会的責任投資株価指数)に採用されている相対的に割安な銘柄を中心にポートフォリオを構築し、長期安定的な信託財産を目指します。

金融商品の例(リフォームローンecoプラン)

省エネリフォームと生物多様性保全

損保ジャパンと損保ジャパン・クレジットは、2009年1月よりリフォームローンecoプランの販売を開始しました。これは、地球温暖化対策となる住宅リフォームを対象としたローンに、全国の里地里山再生・保全活動の支援を組み合わせたインターネットによる個人の申し込みを対象とした金融商品です。

地球温暖化防止とともに、企業の行動が注目されつつある生物多様性保全にも着目した商品構成です。また、企画段階からNPO法人と協働で商品開発を進め、里地里山再生・保全活動を推進するためのスキームを保全活動の現場のニーズに合わせて支援するスキームとなっています。

【リフォームローン ecoプラン 商品スキーム】



その他(自動車保険関係・普及啓発活動)

エコ安全ドライブおよび事故時のリサイクル部品の活用推進

エコドライブは安全運転に通じることをコンセプトにした「エコ安全ドライブ」啓発活動の推進、自動車廃棄物の削減や再生利用推進のために実施しているリサイクル部品活用・部品補修キャンペーン等の活動を日本損害保険協会および各損害保険会社が推進しています。

The screenshot shows the homepage of the Eco-Safe Drive Club. It features a navigation menu, a main banner with the club's logo, and a section titled 'エコ安全ドライブ5か条' (5 Eco-Safe Drive Guidelines). Below this, there are buttons for '法人メンバーに登録する' (Register as Corporate Member) and '個人メンバーに登録する' (Register as Individual Member). A statistics section shows '2009年07月20日現在の登録数' (Registration numbers as of July 20, 2009): 法人メンバー: 5社 (5 Corporate Members), 個人メンバー: 28名 (28 Individual Members). There are also regional lists for various areas like 北海道, 東北, 関東, etc., with member counts and registration links.

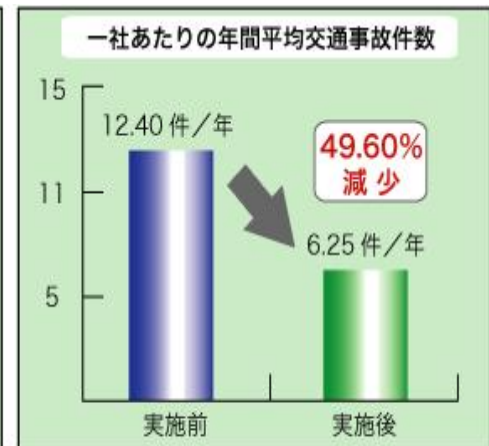
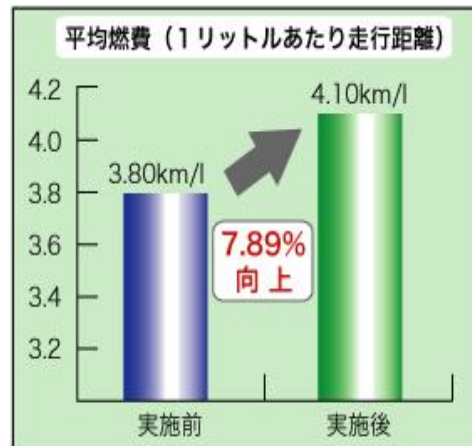
(社)日本損害保険協会のHP

The graphic features a green leaf logo with the word 'safety' inside. To the right, it says '私は実践しています!' (I am practicing!), followed by 'エコ安全ドライブ CLUB' in large, bold letters. At the bottom, the website URL 'http://eco-anzen-drive-club.jp/' and '財団法人 日本損害保険協会' (Nippon Kaisha, Inc.) are listed.

The graphic lists the 'エコ安全ドライブ5か条' (5 Eco-Safe Drive Guidelines):

- 1 ふんわりアクセル「eスタート」
- 2 早めのアクセルオフ
- 3 加減速の少ない運転
- 4 車間距離は余裕をもとう
- 5 タイヤの空気圧をこまめにチェック

At the bottom, it says '財団法人 日本損害保険協会'.



※運送業者を対象とした調査 (会社数 20 社、車両総数 1650 台) 出典: (株)アスア エコドライブ事業部資料より

持続可能な社会を目指した金融面での有効な政策

将来の目指す方向性

火災保険等に係わる損害保険会社の異常危険準備金制度の充実

環境技術の開発にともなうリスク、新しい環境ビジネスに関連したリスクを軽減するような保険の普及を促進する政策

有効と考えられる施策・政策

・損害保険会社は、発生時期・規模の予測が困難な巨大自然災害に対する保険金支払いに備えて、平時から保険料の一定割合を異常危険準備金として積み立て、巨大災害が発生した時は、異常危険準備金を取り崩して保険金を支払っています。
昨今の異常自然災害に伴い、未だ十分な金額まで積立できていないため、長期かつ安定的な火災保険等の提供を実現するため、無税積立率の4%の維持の実施。

- ・保険は新たな技術やビジネスモデル発展を促進するための重要な社会インフラであるが、保険に対する税制は保険の普及のための重要なファクターです。
- ・保険の普及度合いは提供可能な補償額(キャパシティ)や保険料に大きな影響を与えます。従って税制面での優遇 → 保険の普及 → キャパシティの増大、保険料の低減 → 技術開発、ビジネスの発展 という好循環を生みます。
- ・大数の法則が成り立たず、伝統的な保険では引き受けできないリスクに対しては「ファイナイト※」という手法が有効ですが、特にこのような保険に対して税制上の施策が望まれます。

持続可能な社会を目指した金融面での有効な政策

「お金の流れを通じて社会の持続可能な発展に貢献する「社会的責任投資(SRI)」のさらなる普及・促進

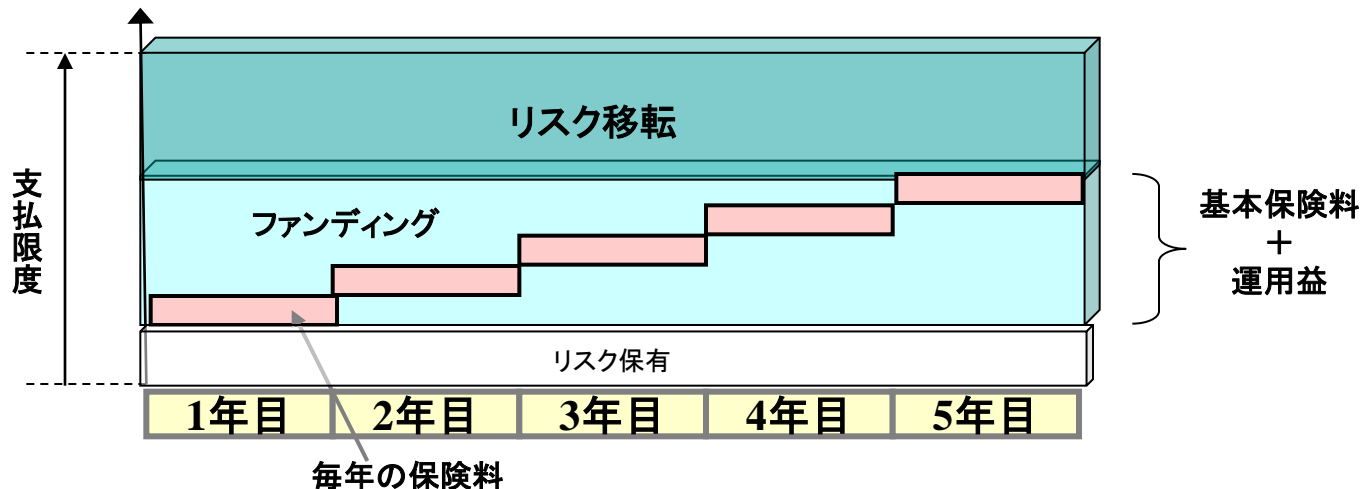
- ・企業を含む全ての組織団体の環境・社会・ガバナンスの取り組みの情報開示促進とそのための制度構築
- ・環境・SRI関係の汎用株式インデックスの開発
- ・事業運用資産、年金運用資産を一定比率以上の範囲でエコファンドを含むSRIファンドによる資産運用の誘導と制度化(欧米の制度を参考に)
- ・個人のエコファンド、SRIファンド、環境融資の税制面の支援

国内や開発途上国の地球環境問題対策に繋がる金融研究の促進

- ・国内や開発途上国の地球環境問題対策の金融面で解決を後押しする官民共同研究の実施と補助
- ・アジア地域の天候デリバティブの普及・促進につながる 公的な衛星や地上観測による気候データ、災害データ や将来予測データの整備とそのデータの提供

※ファイナйт保険について

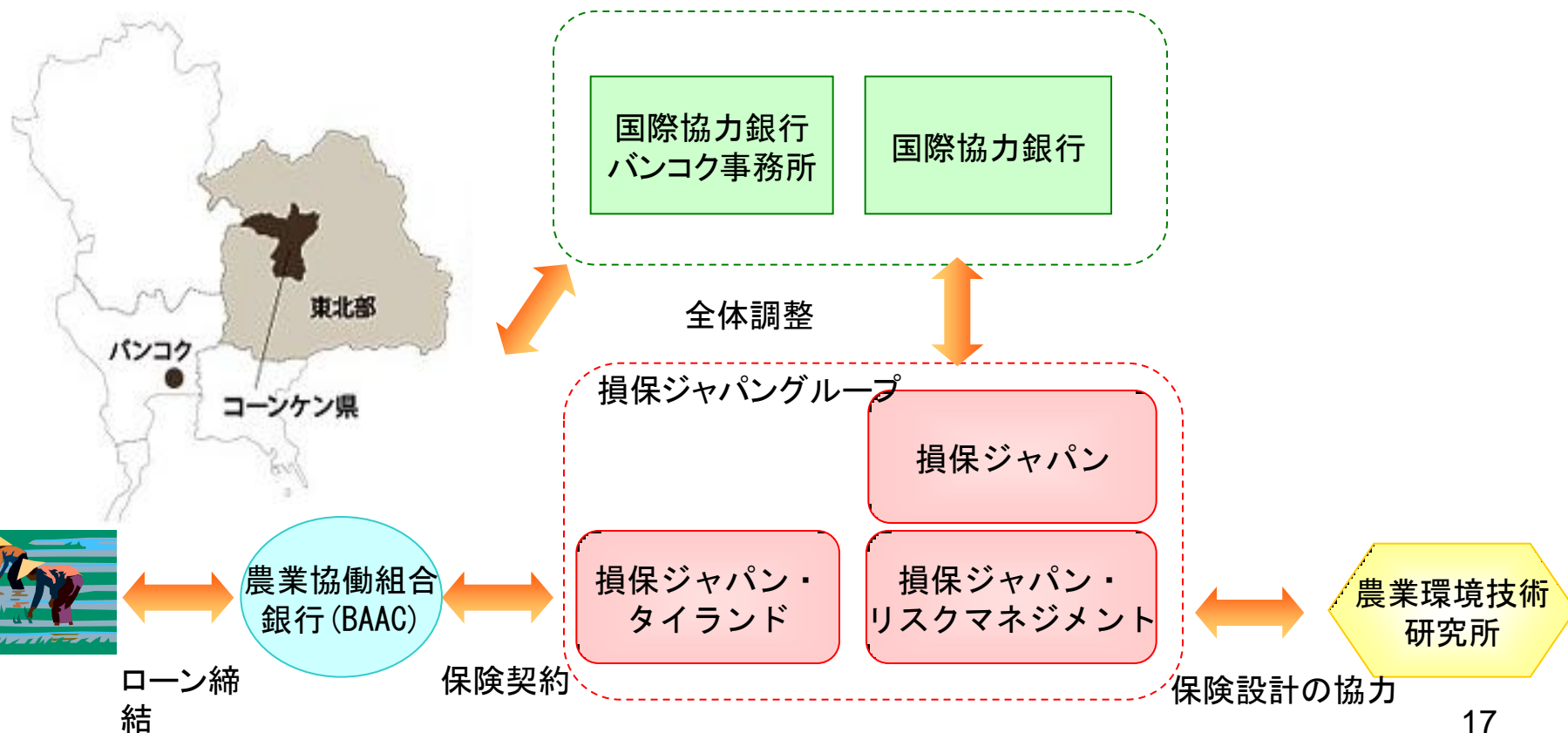
全てのファイナйт保険に共通する特徴としては、「**保険会社に移転されるリスクが限定されている(FINITE)**」ということがあげられます。「保険会社に移転されるリスクが限定される」ということは、お客様側からみれば、保険に転嫁できるリスク量が限られる、すなわちリスクを保険会社とシェアすることになります。ファイナйтは「リスクの保有」と「リスクの移転」を組み合わせたリスク・ファイナンス手法といえます。



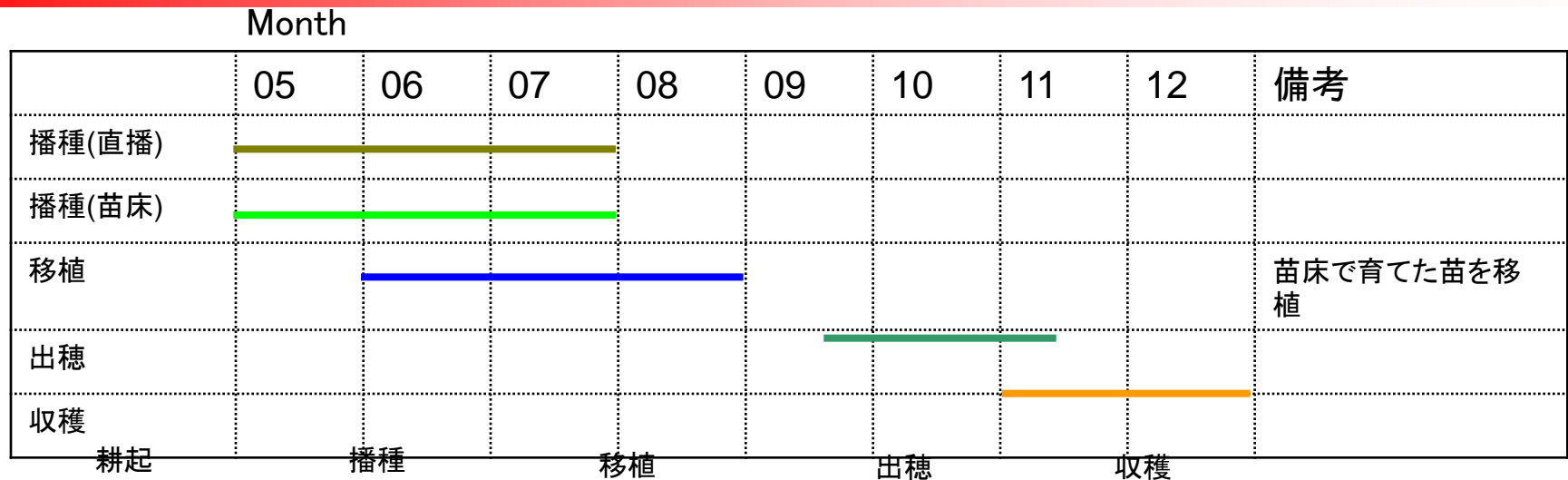
參考資料

タイ干ばつデリバティブ(1/2)

- ・気候変動により、脆弱な開発途上国は深刻な影響を受けると予想されています。
- ・途上国向けの適応策を、官民のパートナーシップで開発していくため、国際協力銀行(JBIC)と共同で、気候変動による開発途上国での被害に対して、保険を活用したリスクファイナンスのありかたを研究
- ・タイの東北部は水資源が乏しく、雨水に頼る天水農法が主流のため、収穫は気象条件に大きく左右されます。
- ・干ばつ発生時にローン返済を一部免除するために保険商品と組み合わせたスキームの提供を通じて、農家の「適応」力の向上を図ります。

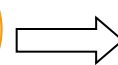


タイ干ばつデリバティブ(2/2)



出典(画像) タイ大使館HP その他

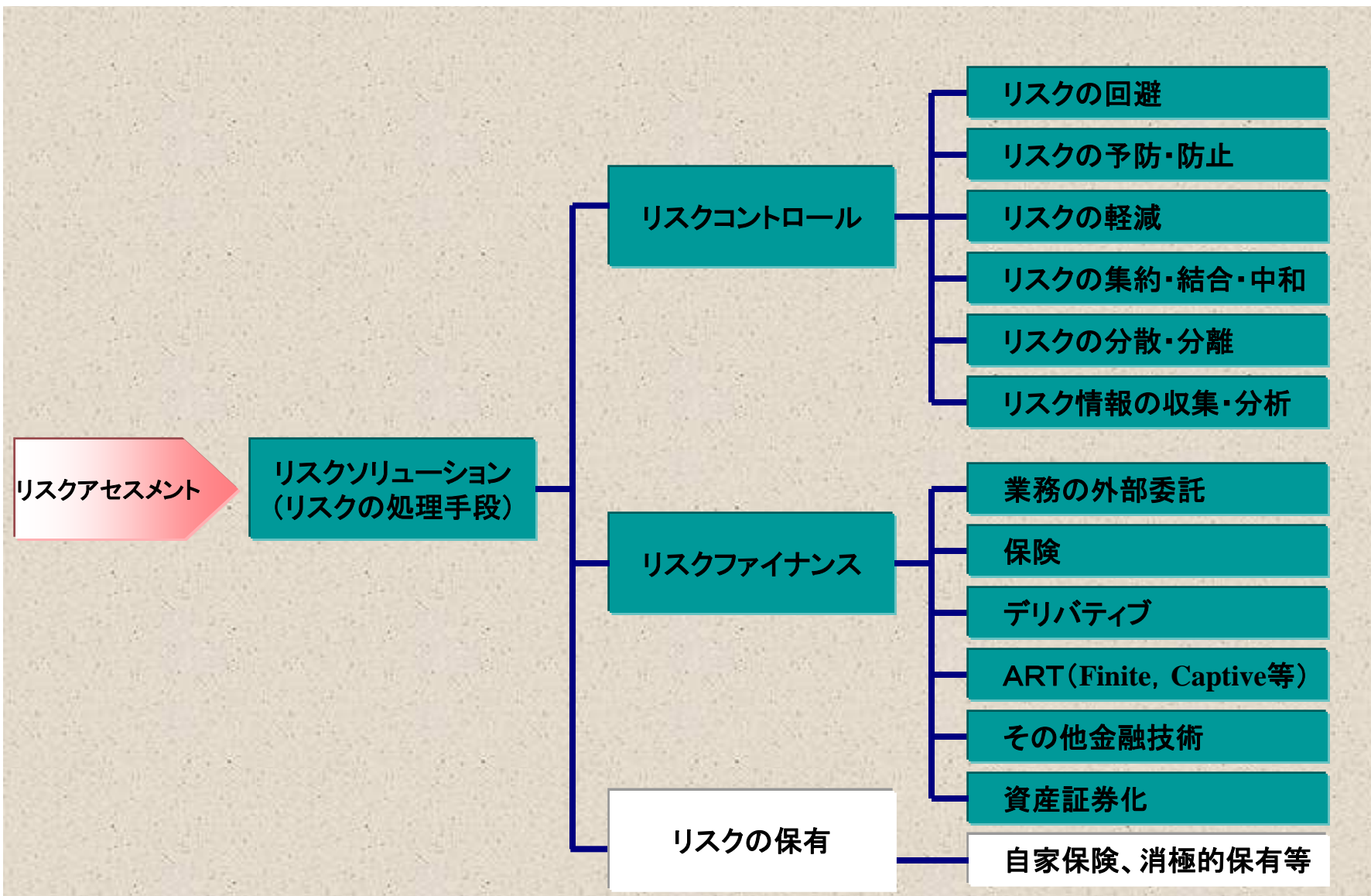
干ばつ



降雨量を指標とした天候デリバティブ

- ・雨季の初期に十分な降雨量がないと、開始時期が遅れが出ます。
- ・しかし開始から収穫までの期間は、ほぼ一定です。
- ・そのため開始時期が遅れると、生長期間が短くなり、イネが大きく成長できません。
- ・稲作の開始時期の干ばつが、イネの収量に最も大きな影響を与えます。
- ・この時期のターゲットとした保険商品を開発中で、2010年に販売開始予定です。

リスクソリューション



リスクファイナンス

